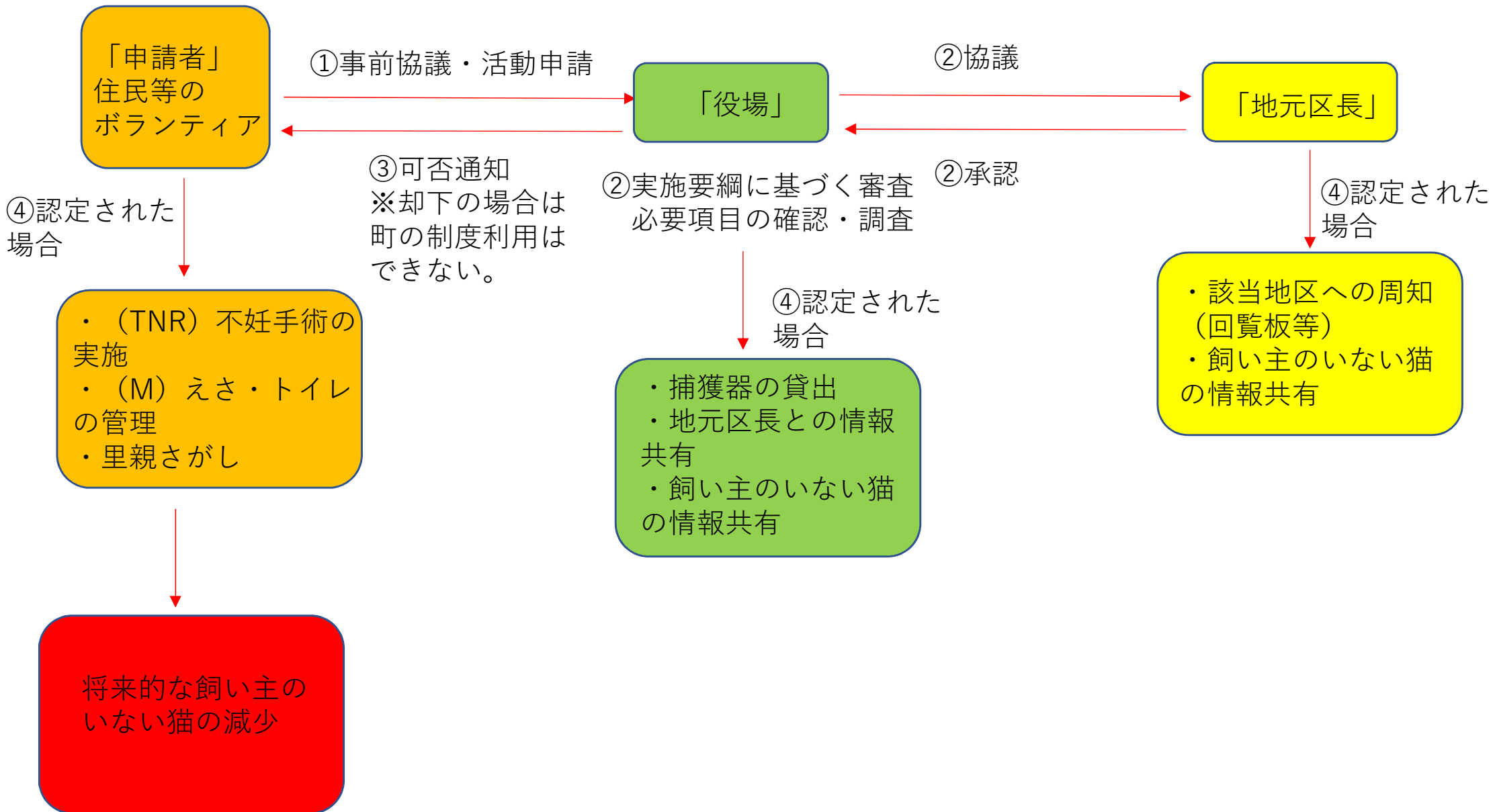
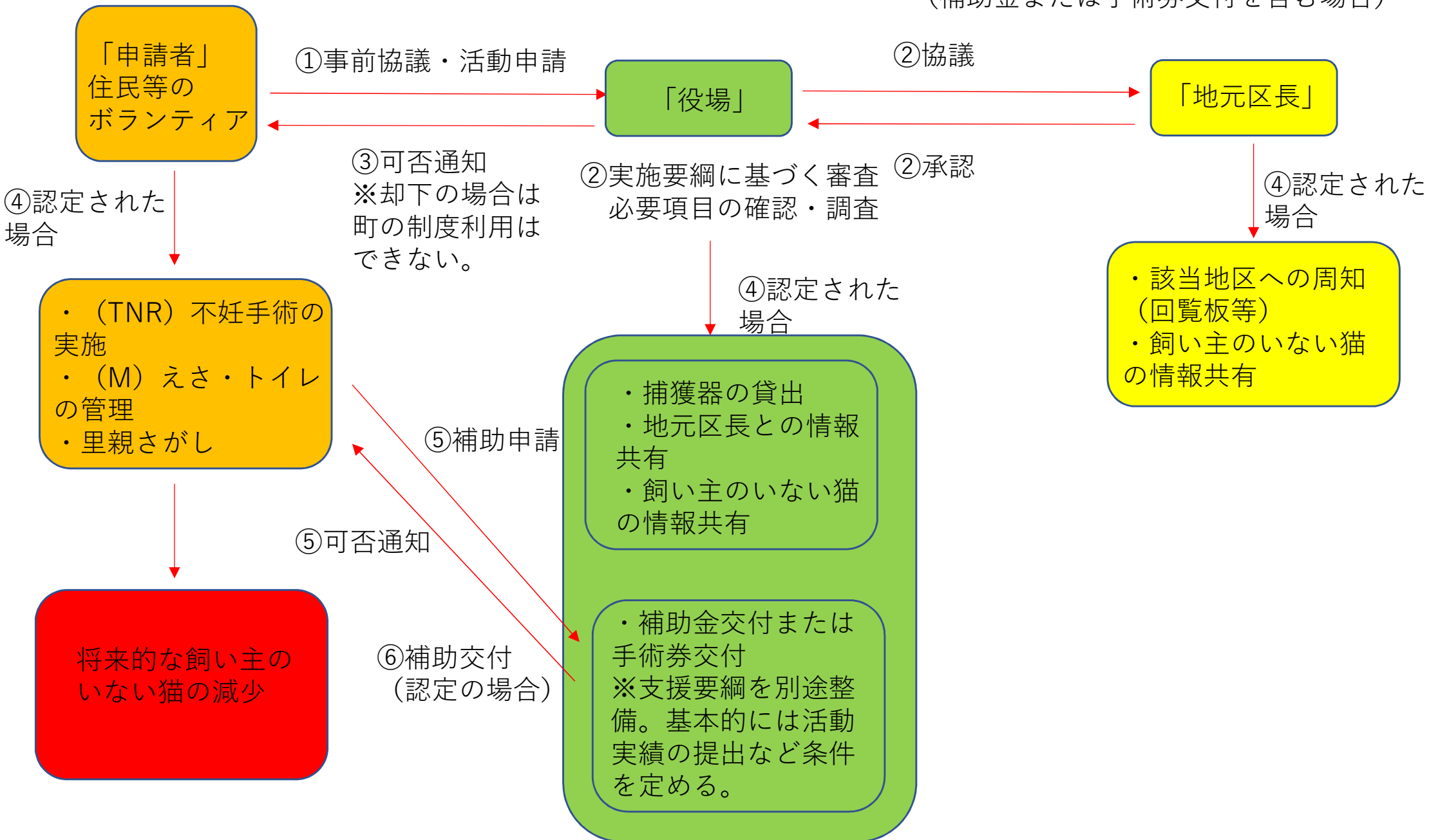


飼い主のいない猫対策における 制度設計について

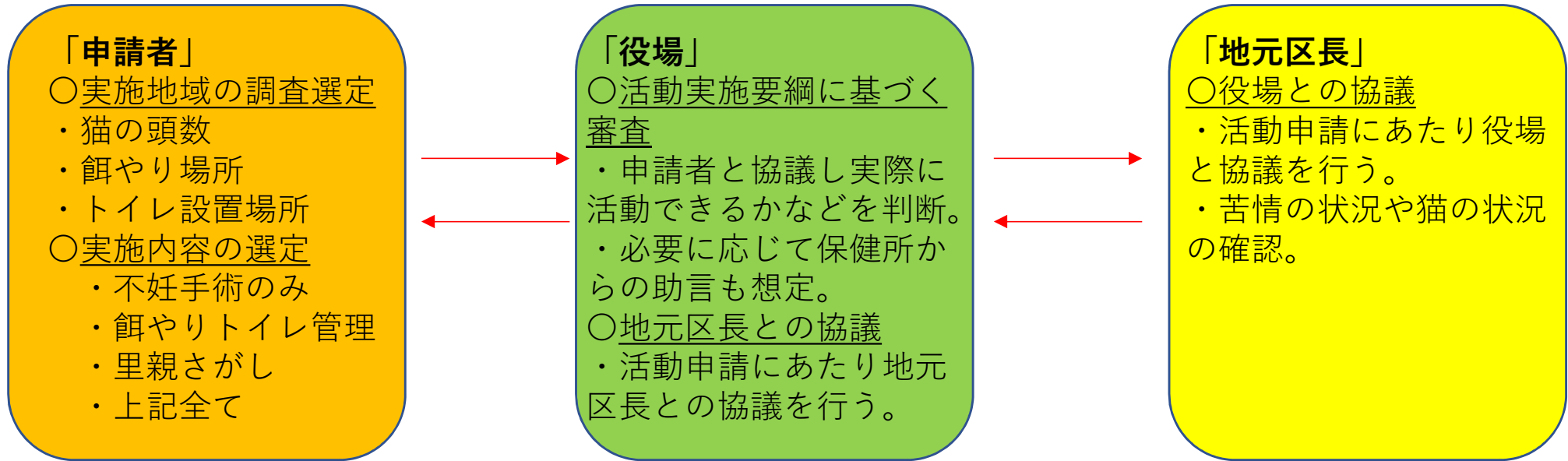
TNR (M) 活動にかかるイメージ① (案)



TNR (M) 活動にかかるイメージ② (案)
(補助金または手術券交付を含む場合)



①事前協議・活動申請、②協議について



③可否通知、④認定された場合について

認定された場合、町へ登録され活動を行うことができる。却下の場合は一切の活動を認めない（特に餌やり）。※認定条件は素案策定時までには検討。

「不妊手術の場合」

捕獲器貸出、捕獲器へ取り付けるTNR実施の掲示物交付などの支援実施。支援制度策定後は補助金または手術券交付が受けられる。

「餌やりトイレ管理のみの場合」

場所や時間、ふんの清掃などルールを守った餌やりを行う。TNR活動者と猫の情報連携を行う。

⑤補助申請、⑥補助交付について

「制度について」

まずは、活動者を登録する活動実施制度を制定し、活動状況に応じて支援要綱を制定する予定としており、基本的には不妊手術に係る費用の補助を考えている。ただし、不妊手術において、家庭内で飼育している猫で申請される可能性もあることから、猫の捕獲や病院までの運搬など、活動計画の実現性を十分に精査する必要があると考えられる。

また、餌やり者については、R4・5年度において、餌やりの時間や場所の報告や、ふんの清掃を含めた活動についての誓約書を提出してもらうことで、試験的に一部地域で数名に認定を行っていた。しかし、いずれも誓約違反により、餌やり行為禁止となったことから、補助の交付にあたっては、慎重な認定と活動実績の確認が必要となる。

このため、まずは活動者を登録する制度を制定し、その登録において活動のある者に対し補助を行う方針として考えている。

「補助内容について」

補助の内容としては、不妊手術補助とし、以下の案を検討している。

(1) 補助金交付

福岡県獣医師会のおすすなる猫事業を例とし、補助申請者が負担した不妊手術費を補助金として交付するもの。

○メリット

- ・申請者自分で病院を選べる。

○デメリット

- ・申請者が一時的に費用を負担することとなる。

(2) 手術券交付

どうぶつ基金が費用負担している、さくら猫不妊手術事業を例とし、補助申請者に手術券を交付することで、町が手術費用を負担するもの。

○メリット

- ・申請者の費用負担なし

○デメリット

- ・町と契約した病院のみで手術。予約調整が必要。

「補助率について」

補助内容が (1) の場合は、補助率を定める必要がある。福岡県獣医師会のおすすなろ猫事業は手術費用の半額程度が補助されている。予算の範囲内で補助金を交付することとなるため、補助率が高いほど1件あたりの申請者の費用負担は軽減されるが、全体の交付件数も減ることとなる。

(例) 予算10万円 1匹の手術費用2万円とした場合

- ・補助率100% (全額補助) $10 \div 2 = 5$ 件
- ・補助率50% (半額補助) $10 \div 1 = 10$ 件

(2) の場合は、動物病院と町で単価契約を締結し、全額補助として考えている。

(1) ・ (2) どちらの場合においても、不妊手術の実施件数実績をもとに、予算を積算し要求していく必要がある。